

力試験（OSCE）を実施するために、「測定されるべき能力評価にマッチした妥当性の高い課題の作成」と「実現可能性を高めるために、個々の病院もしくは病院群での実施をサポートするためのパッケージ（課題提供・評価方法の指導等）開発」を行っている。

具体的には、

- ・課題作成、課題の問題点抽出およびその修正のためのワークショップを開催する。

- ・全国の様々な地域の研修医に上記課題によるOSCEを受験してもらう。
 - ・上記結果に基づき、課題の妥当性や客観性などを検討する。
- である。

副委員長：高橋弘明、委員：青松棟吉、久留宮隆、小西靖彦、清水貴子、高田清武、寺嶋吉保

14. 生涯教育委員会

木下 牧子（委員長・織島病院）

生涯教育の目標は医師会、あるいは医学教育学会でも十分な検討を経たものが提示されている。また学習方法も e-learning や DVD 学習、あるいは内科学会での hands-on 講習会など様々な工夫がされている。しかし、評価については確立されていないばかりか、免許更新制度との関係でむしろタブー視されている側面がある。世界の潮流を考えた時、社会に対する責任として質の担保のための評価は避けて通れないことは、論をまたない。

第16期生涯教育委員会では、gate keeper としての役割、および慢性疾患の疾患管理を行う役割を求められている開業医の質の評価方法の一つとして、めまい、腰痛のQIを開発した。17期ではこのQIの生涯教育の評価方法としての有用性を検討することとした。欧米ではこのQIを総括的評価としてとらえ、診療報酬に反映させたり、資格認定・更新の要件としている。日本での導入に当たっては、資格認定に取り入れるような取り組みは、少なくとも医学教育学会の役割を超えて

いると判断。自らの診療の質向上のための形成的評価としての有用性に注目し、実質的な運用方法を検討することとした。今期の活動としては、前期でのパイロットスタディの結果、開業医を対象とした調査研究は診療録が統一化されていないことから困難であると判断。生涯学習方法の修得が必要である研修医を対象とした研究を行うこととした。

対象病院は、一般病院（聖隷浜松病院／済生会川口）と大学病院（杏林大）とし、25年度（25.6-26.5）はコントロールとしてめまい診療に関する調査（外部評価者による診療録監査）を行い、26年度（26.6-27.5）にはめまいのQIと新規に作成したQI学習のためのDVDを利用した教育を行い、同様にめまい診療に関する調査（外部評価者による診療録監査）を行う計画である。

副委員長：船崎俊一、委員：清水貴子、野村英樹、福沢嘉孝、松村真司、竹本毅